「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会ニュース・2024 年７月発行

つながる力

≪No.２７≫

24.5.27 デニー県知事と面談

写真　北上田毅顧問提供

今号は、「うるま市島ぐるみ会議」の方々のお世話で５月に開催した第 11 回総会の報告号です。辺野古・塩川では本部町島ぐるみ会議、島ぐるみ会議名護の友人たちに、南部視察では糸満、八重瀬、豊見城、南城、南風原の島ぐるみ会議の皆さんに丁寧なご案内を頂きました。嬉しい出会いと深い学びを頂き感謝です。またデニー沖縄県知事にもお目にかかることができ、「生物多様性国家戦略」の視点から辺野古の承認再撤回をお願いしました。6月 16 日投開票された「県議選での与党大敗」のニュースに衝撃を受けたところですが、マスコミ報道ではデニー県政への評価、辺野古反対の世論は依然として大勢を占めています。次は私たち「本土」が頑張らねばなりません（県知事に手渡した要請書は 2～3 頁に掲載）。　　共同代表　阿部悦子

≪　目　次　≫

辺野古新基地建設における大浦湾埋立て、沖縄島外からの土砂持ち込み、
及び沖縄島での海砂採取に関する生物多様性の観点からの要請書　・・・２～３
追悼　そして沖縄県と面談の報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　阿波根美奈子　・・・・４
24.5.27 土砂全協、沖縄県知事と面談　（5.28 付琉球新報・沖縄タイムス）　・・・・・・・・・・５
辺野古土砂全協第１１回総会報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　松本宣崇　・・・・６～８
土砂全協第１１回総会の出席者から　・・・・・　青野篤子　小薮広子　山本みはぎ　・・・９～１０
大浦湾の埋立て強行に怒り！ 塩川で土砂搬出に牛歩で抗議　・・・・　松本宣崇　・・・・・１１
よくわかる辺野古の今　「沖縄　壊死する辺野古の原風景２０２４」・・　中村吉且　・・・・・１２
住民が「自衛隊の訓練施設建設」はねのけた　・・・・・・・・・・・・・・・　八記久美子　・・・・１３
沖縄戦から今日に連なる戦後史、新たな軍事化に向かう現場を訪ねて・・　毛利孝雄　・・１４～１５
辺野古住民による「沖縄県の埋立承認撤回を取消した国交大臣裁決」取消訴訟　・・・・・１６～１８
沖縄からの便り２１　国の上告に抗議する!!　・・・・・・・・・・・・・・　浦島悦子　・・・・・１９
いんふぉめぃしょん　７月 11 日防衛省交渉＆院内集会　ほか　・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

写真提供　　北上田毅　阿波根美奈子　阿部悦子　松本宣崇　中村吉且　八記久美子　毛利孝雄

2024 年 5 月 27 日

沖縄県知事　玉城デニー様

辺野古新基地建設における大浦湾埋立て、沖縄島外からの土砂持ち込み、及び沖縄島での海砂採取に関する生物多様性の観点からの要請書

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

玉城デニー県知事を先頭に、辺野古新基地建設に抗し日々ご奮闘されている沖縄県行政の皆様に敬意を表します。　　（　中　略　）

さて辺野古埋立てをめぐっては、司法が、代執行訴訟などに関し正当な判断をしない中、大浦湾での工事が強行されており、知事が埋立承認を再撤回するなど、状況を打開するために新たな方針が求められています。その際、埋め立て承認後の事情の変化として考慮されるべき重要な論点として生物多様性に関する新たな国際的取り組みや新国家戦略との整合性の問題があります。

生物多様性をめぐっては、2019 年、「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES)」が「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」で、「世界中に約 800 万種と推定される動植物について、約 100 万種が数十年内に絶滅の危機にある」と警鐘を鳴らしました。その上で生物多様性の損失を止め、回復させるためには、「これまでどおりから脱却し、経済、社会、政治、技術全てにおける横断的な『社会変革』が必要である」と主張しました。これを受け、2022 年 12 月、生物多様性条約第 15 回締約国会議が「昆明・モントリオール生物多様性枠組み」という新たな世界目標に合意し、2023 年 3 月、日本政府は新たな生物多様性国家戦略を閣議決定しました。両者は「陸域・海域の 30%以上を保護区にして守る」という高い目標を掲げています。ここ数年のこうした動きは、20 世紀末に生物多様性条約を作り人類共通の課題として生物多様性の保持・回復を掲げ 30 年間にわたり努力してきたにもかかわらず見るべき成果が見えていない現状を何とか克服しようとの国際的な取り組みです。日本政府には、「昆明・モントリオール枠組み」や自ら作った生物多様性国家戦略を先頭に立って推進する責務があります。そこで大浦湾・辺野古沖の埋立てに関わる行為と生物多様性をめぐり以下の４項目を要請します。

要　請　項　目　：

１．代執行により大浦湾の工事が強行されている現在の状況で、あくまでも辺野古新基地建設を阻止するためにどのような具体的な方策を取ろうとされているのかを明らかにすること。

２．沖縄島外からの外来生物持ち込みを食い止めるべく土砂条例に基づく厳正な対応をとること

奄美大島など沖縄島外からの土砂搬入が現実化する際には、沖縄県「公有水面埋立事業における埋立用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例」（以下、「土砂条例」）の趣旨を実現し、より有効性を高めるために、外来生物の侵入を防止するための厳正な行動をとるよう求めます。

この問題については2016年～2019年にかけ土砂全協として防衛省交渉を通じて、石材の場合はともかく水による洗浄は粘土混じりの土砂に対しては無効であることが明らかになっています。その後、防衛省は熱処理の実験なども行いましたが、大量の土砂の熱処理など不可能です。いずれにせよ土砂条例に依拠した外来生物の持ち込み問題への厳正なる対処をとるよう要請します。

３．「生物多様性国家戦略2023-2030」に基づき辺野古・埋立承認の再度の撤回を検討すること

本来、大浦湾及び辺野古沖一帯は共同漁業権第5号区域（名護市東岸地域）の一部であり、日本型海洋保護区です。それどころか沖縄島沿岸は共同漁業権区域が連なっており基本的に全て海洋保護区です。唯一の例外が大浦湾です。大浦湾の埋立て予定地を囲む「臨時制限区域」は漁業権が放棄されていることから海洋保護区から外されていると考えられます。しかし大浦湾はジュゴンやアオウミガメの生息に深く関わり、多様なサンゴが生息し、日本初のホープスポット（希望の海）に認定された事実と全く逆の評価であり、不当としか言いようがありません。生物多様性を基準に正当に評価すれば、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」（海域番号14802「沖縄島中北部沿岸」）に含まれていることを活かして大浦湾を海洋保護区とするべきであることを主張できるはずです。その上で海洋保護区で生物多様性を破壊する埋立てはしてはならないとの観点から再度の埋め立て承認の撤回を検討してください。その具体化のために以下の４点を進めてください。これらは2024年3月県議会への陳情第20号とほぼ同じ内容ですが、「陳情の処理方針」（以下「処理方針」）を踏まえて改めて要請します。

a）生物多様性基本法第12条第2項に依拠しながら、ここ数年の生物多様性の保持に関する国際的取り組み、とりわけ生物多様性国家戦略に照らした大浦湾埋立ての整合性に関する沖縄県としての公開質問状を日本政府に提出し、市民に見える形で辺野古新基地埋立てと生物多様性保全の整合性に係る論争を創りだすこと。これは、一般論としての情報発信を求めているのでなく、この問題に関する政府との論争の土俵を作るという趣旨です。

b)「令和6年度中の改定をめどに」（処理方針３）見直しを進めている「生物多様性おきなわ戦略」の改訂において共同漁業権区域など既に海洋保護区となっている海域に加え、沖縄県内のすべての「生物多様性の観点から重要度の高い海域」を海洋保護区とすることを検討すること。また県内の既存の海洋保護区を図示すること。

C）翁長知事が作った「埋立て承認手続きに関する第３者委員会」の「検証結果報告書」が、新基地埋立ては「法律に基づく計画に違背する」点で、「生物多様性国家戦略 2012-2020」及び「生物多様性おきなわ戦略」に違反する可能性が高く「法的に瑕疵がある」としたことを改めて思い起こし、検討の基礎とすること。

D）上記 a～c など「生物多様性国家戦略」に照らした不当性を含め、新たな方針として再度の埋立て承認撤回に向け第３者委員会を設置し、総合的に検討すること。「処理方針４及び5」は、「行政処分の撤回は、瑕疵なく成立した法律関係について、その後の事情により、法律関係を存続させることが妥当でないということが生じたときに、法律関係を消滅させるものである」としていますが、ここ数年の生物多様性を巡る新たな動向は、それに該当する要素を有しているのではないかと考えます。

これらにより昆明・モントリオール生物多様性枠組みや新生物多様性国家戦略を推進する立場にある政府の、国家戦略に反する犯罪的な行為を止めることができるはずです。

４．海砂採取量の総量規制を取り入れるとともに、まず海洋保護区（特に共同漁業権区域）での海砂採取を禁止するよう要綱を改正すること

大浦湾の軟弱地盤の改良のためには、海底一面への敷砂や、４万７千本もの砂杭・砂柱を打ち込むために、大量の海砂の調達が必要になります。海砂採取には海洋環境の破壊、即ち生物多様性の低減が避けられません。そこで当面、できる限り海砂採取を抑制するべく、「沖縄県海砂利採取要綱」に年間採取量の総量規制を取り入れるとともに、少なくとも採取海域（第２条）として「共同漁業権を含む 海洋保護区でない区域であること」を追記するなど要綱の改正を求めます。

追悼　そして沖縄県と面談の報告

本部町島ぐるみ会議　阿波根美奈子

２月８日　いつも通りの塩川での抗議行動の後、帰宅したその日に会員の前田良子さんは亡くなりました。「前田さんがいたから塩川の闘いを続けて来られた」と、H さんは言いました。私もそう思います。前田さんは民主主義を願う熱意の人でした。

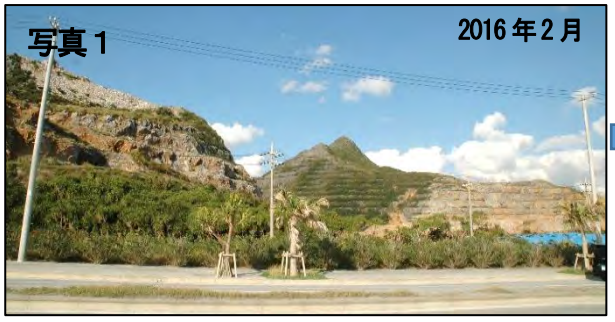
５月 27 日、本部町島ぐるみ会議の一員として、土砂全協の皆さんと共に沖縄県部長の方々に面談する機会を得ました。 辺野古新基地建設に反対している沖縄県政には、この工事によって本部半島がどのように変貌しているかを知って頂きたいと思いました。

国道 449 号から撮った山は、6 年間で半分になり、遠景の山頂が見えなくなりました（写真１，２）。また天然記念物の塩川は雨のたびに真っ赤になり、塩分濃度は０になります（写真３）。

無くして良い山や汚して良い川はあるのでしょうか。塩川でも安和でも、毎日が辺野古への搬出量を減らす勝負です。短い時間でしたが、青い海が魅力の観光立県、沖縄県は自然保護の観点からも辺野古新基地建設にストップをかける有効な手法をとっていただきたいと要望しました。

７月 16 日の県議会選挙では玉城県政を支える与党が過半数を割りました。しかし、私たちはあきらめていないことを現場で示していきます。

（24.6.20）



塩川　1972年5月15日指定　国指定天然記念物

塩川は海水面より高い位置にある湧水口から塩分を含む水が湧き出た全長 300m、川幅 4mの小さな川です。湧水の分析から、塩分は海水由来であることがわかっています。湧出口の内部は洞穴になっており、地下で海底とつながっていると推定されています。この不思議な川は、1970年7月に当時の琉球政府により天然記念物に指定され、72 年 5 月の沖縄の本土復帰により国の天然記念物に指定されています。

（本部町教育委員会の説明文から）

24.5.27 土砂全協、沖縄県知事と面談

辺野古埋立て承認再撤回 を 要請

辺野古土砂全協は５月25~27日、第11回総会を沖縄県うるま市で開催しました。これを機会に沖縄県知事に辺野古埋立て承認の再撤回を要請するため、北上田顧問を仲介に面談の場の設定を求めてきました。

５月２７日午前、知事との面談が実現、更に午後、知事公室・水産・土木建築の三部局と面談、意見交換しました。地元２紙は、大きく取り上げました。↘

知事に承認再撤回要請

土砂搬出反対団体 辺野古巡り

米軍普天間飛行場移設に伴う名護市辺野古の新基地建設を巡り、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の阿部悦子共同代表らは27日、県庁に玉城デニー知事を訪ね、生物多様性国家戦略に基づき、埋め立て承認を再撤回することなどを求める要請書を手渡した。

要請書ではほかに、県外からの外来生物持ち込みを食い止めるために土砂条例に基づいた厳正な対応をとることや、海砂採取量の総量規制を取り入れることなど4項目を求めた。同協議会の湯浅一郎顧問は、国が2023年3月に「生物多様性国家戦略2023−2030」を閣議決定した一方で、米NGOが19年に世界的にも重要な海域としてホープスポットに認定した辺野古・大浦湾一帯で埋め立て工事を進めている現状を疑問視。「県は国に対して公開質問状を」などと求めた。

阿部代表は「辺野古の工事を本気で止める施策を出してほしい」と訴えた。

玉城知事は「辺野古の海域は次世代に引き継いでいかなければならない財産だ」と話し、貴重な自然を守るための方法を検討していきたいとした。

同協議会メンバーらは同日、県の溜政仁知事公室長、前川智宏土木建築部長、多良間一弘環境部長と非公開で面談を実施した。

（與那原采恵）

県外土砂「厳正対処を」

土砂全協 知事に要求

玉城デニー知事（左から４人目）に要請書を手渡す辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会のメンバー＝27日、県庁

名護市辺野古の新基地建設に伴う埋め立て土砂の搬出候補地の市民団体でつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（土砂全協）」は27日、玉城デニー知事と県庁で面会し、県外からの土砂搬入に厳正に対処するよう求めた。知事は地盤改良工事による環境影響は計り知れないとしつつ「事前に止める手だてが講じられず、じくじたる思いだ」と述べた。

土砂全協は同日、県幹部とも意見交換し、県内での海砂採取量の総量規制の設定などを要請。土砂全協によると、県は本年度、関係者への意見聴取を再開すると説明した。総量規制には慎重姿勢を示したという。

土砂全協のメンバーら14人は同日、本島南部の戦跡や鉱山、自衛隊基地も見学。岡山県から来た松本宣崇事務局長は「遺骨収集が終わっていない南部土砂を辺野古埋め立てに使うことがあってはならない。人道上許されない」と話した。

（政経部・嘉良謙太朗、南部報道部・国吉聡志）

2024.5.28付 地元紙報道

琉球新報２面 総合

沖縄タイムス２面 総合

↘ 県の要請で人数を限られたとはいえ、県知事が直接、任意の法人格なき市民団体と面談するのは、異例の対応であるとのこと。

加えて、非公開とはいえ三部局が同席して面談に臨むなど、まさに異例づくしの日となりました。　編集部

辺野古土砂全協第１１回総会報告

辺野古土砂全協事務局長　松本宣崇

第１１回総会は５月２６日、うるま市島ぐるみ会議のご協力を得て、開催されました。総会前には、西日本各地の軍事増強に抗する闘いの報告、総会直後に持たれる沖縄県知事面談そして担当部局との意見交換を視野に入れ、「生物多様性」をキーワードとした辺野古埋立て承認の再撤回を求める提案、辺野古埋立て工事の現況等についてミニ講演が開催されました。うるま市島ぐるみ会議の皆さんはじめ沖縄県内から、午前の開催にもかかわらず３０名余り参加され、土砂全協の提起に耳を傾けて頂きました。第１１回総会は2023年度活動報告並びに決算報告を承認し、以下のとおり、2024年度活動方針を採択しました。

2024 年度活動方針

１　各地の土砂搬出地の監視を怠らない

４月１８日、奄美大島からの土砂搬出の一報が入りました。南部土砂の代替に、他府県の土砂が狙われる状況が起こっている中、これまで当会が積み上げてきたノウハウと、培ってきたつながりで各地の諸団体との連携強化し、即応できる態勢を整えておきます。

２　遺骨混じり土砂を使わせない

沖縄戦激戦地の南部では土砂に遺骨が混じることは避けられません。世論も注目し各地の議会などでも反対の議決が相次ぎ、防衛省の強行にブレーキをかけています。土砂がなければ埋め立てはできません。力を集中し遺骨混じりの土砂を大浦湾に沈めることに反対します。

３　海砂採取反対の世論をつくろう

軟弱地盤の改良のためには７万本以上の砂杭を打ち込み多量の海砂の調達が必要になります。海砂採取では海洋環境の破壊が避けられません。政府が閣議決定した「生物多様性国家戦略 2023-2030」を沖縄の海でも厳守させるよう世論への働きかけを強めます。

「沖縄県海砂利採取要綱」に、年間採取量の総量規制を取り入れ、採取海域として「共同漁業権を含む海洋保護区でない区域であること」を追記するなど要綱の改正を求めます。

４　沖縄県に対し大浦湾一帯の埋立て承認の再度の撤回を求めよう

大浦湾及び辺野古沖一帯は共同漁業権第５号区域（名護市東岸地域）の一部であり、日本型海洋保護区です。埋立て予定地は漁業権が放棄され海洋保護区から外されていますが、「生物多様性の観点から重要度の高い海域」に含まれていることを活かして「大浦湾一帯を海洋保護区とする」よう求めます。その上で沖縄県に対し、上記の観点に沿って再度の埋め立て承認の撤回を求めます。それによって、生物多様性国家戦略を推進する立場にある政府の国家戦略に反する犯罪的な行為を止めていきましょう。

５　現地の闘いを支え続けよう

代執行が強行され大浦湾側でも埋め立て工事が始まりましした。「心に杭は打たせない」という民衆の闘いの伝統を受け継ぎゲート前で安和桟橋で塩川港で市民の非暴力の抵抗が続きます。現地に駆け付けよう。土砂全協は昨年に引き続き、参加者の少ない安和、塩川港への県外参加者への助成を行います。

６　住民訴訟を全国で支えよう

最高裁は沖縄県が提起した設計変更不承認を巡る訴訟を棄却しました。民主主義にも地方自治にも反する暴挙に対し、地元住民は新たに「代執行の取り消しを求め

る住民の訴訟」を原告30人で那覇地裁に提起しました。私たちは辺野古新基地建設に反対する住民訴訟の意義をひろめるため、全国から支える活動をします。

7　政府交渉を継続しよう

他団体と協同して政府交渉に参加します。

代執行下の辺野古工事をめぐる問題点について、7月前半の日程で「総がかり行動実行委員会」「土砂全協」「宗教者ネット」「国会包囲実」の4者共催による政府（防衛省）交渉と北上田毅さん講演会の開催が検討されています。海砂採取・遺骨南部土砂・奄美からの土砂搬出などについて、政府を追及するとともに広く訴える機会としていきます。

8　「島々を戦場にするな」の思いに呼応し、「本土」での戦争準備を止めよう

政府やマスコミが「台湾有事」を煽り、「南西諸島」の軍事要塞化を進めるなか、九州中国四国地方にも弾薬庫やミサイル配備、民間空港や港湾での戦争準備～戦争への後方体制の構築～が拡大しています。私たちは「本土」での戦争準備をやめさせることで、沖縄を攻撃拠点とする戦争の開始・戦場化を止める行動をしていきます。

県に承認再撤回を要求

土砂全協が総会

古里の土 使わせない　辺野古止める策を提案

ふるさとの土を戦争に使わせない―。名護市辺野古で進む新基地建設の埋め立て工事を巡り、埋め立て資材搬出地の市民団体などでつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（土砂全協）」は26日、うるま市で総会を開いた。総会は11回目で、15都府県から約50人が参加。県に埋め立て承認の再撤回を要求し、新基地建設に反対する住民の訴訟を支援することなどの活動方針を確認した。（社会部・塩入雄一郎）

県に対し、埋め立て承認の再撤回を求めていくことなどの活動方針を確認した土砂全協の総会＝26日午前、うるま市

総会では沖縄平和市民連絡会の北上田毅さんが辺野古の工事の現状を説明した。政府が埋め立てに鹿児島県・奄美大島で採掘した土砂の使用も検討していることを批判し、「県は特定外来生物の進入を防ぐのを目的に制定した条例で土砂の搬入を止めることができる。県は急いで準備を進めなければならない」と話した。

ピースデポ副代表の湯浅一郎さんは、政府が閣議決定した生物多様性国家戦略の観点から埋め立て計画の中止を求めていくこと強調。「手詰まり感のある現状を打開できる。どう対応していくのか、県に公開質問状を出してもいい」と提案した。

大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会の池田年宏さんは、大分県で進む陸上自衛隊の基地機能強化について説明。弾薬庫建設が進められているが、住民への説明は建設が分かってから9カ月後だったといい「沖縄のミサイル連隊と直結している。住宅密集地に弾薬庫を造るのは国際人道法違反だ」と訴えた。

総会後は、防衛省が陸自訓練場建設計画を断念したうるま市のゴルフ場跡地などを視察した。土砂全協は27日、県に対して埋め立て承認の再撤回などを求める申し入れをし、記者会見を行う予定。

辺野古土砂搬入 県は毅然対応を

全国連絡協が総会

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会は26日、うるま市の春日観光ホテルで第11回総会の一環として、県内外で発生している基地問題や辺野古埋め立て土砂などに関する講演会を開催した。講演会には沖縄平和市民連絡会の北上田毅さん、鹿児島県護憲平和フォーラムの磨島昭広さんらが講師として登壇した。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の講演会の参加者ら＝26日、うるま市の春日観光ホテル

第11回総会は25日から27日の日程で開かれ、名護市辺野古やうるま市石川のゴルフ場跡地などの視察も実施された。磨島さんは、昨年8月に鹿児島県の海上自衛隊鹿屋航空基地で米無人機MQ9リーパーが滑走路を逸脱した際に地元への説明が尽くされなかったことや、同県内の自衛隊弾薬庫建設の状況などを説明した。北上田さんは、辺野古の新基地建設の埋め立て用土砂を奄美大島から調達する計画が上がっていることについて「県が毅然（きぜん）とした対応をしない限り外来生物が混じった土砂でも入ってきてしまう」と訴えた。

同協議会は27日、南部の視察をするほか、玉城デニー知事に沖縄島外からの土砂の持ち込みなどに関する要請書を手渡す予定。（福田修平）

2024. 5. 27 付
地元紙報道
琉球新報
18 面　社会
沖縄タイムス
18 面　社会

2024年度予算

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
第9期（2023.4.1～2024.3.31）予算及び決算
並びに次期、第10期（2024.4.1～2025.3.31）予算案

	勘定科目	補助科目	第9期 予算	第9期 決算	第10期予算
収入	前期繰越		937,471	937,471	194,865
	会費		980,000	949,000	2,050,000
		団体年会費	100,000	80,000	100,000
		個人年会費	550,000	819,000	900,000
		協賛団体	30,000	50,000	50,000
		総会参加費等	300,000	0	1,000,000
	事業収入		0	0	200,000
		リーフレット販売	0	0	100,000
		オンライン講座	0	0	100,000
	寄付・カンパ		650,000	693,300	850,000
	雑収入		10	12	10
		雑収入	0	0	0
		受取利息	10	12	10
	辺野古基金助成		0	0	0
合計			2,567,481	2,579,783	3,294,875

支出	外注費		0	50,270	0
	機関紙費		635,000	1,243,846	1,165,000
		封筒・振替用紙	15,000	53,598	15,000
		印刷費	400,000	774,814	720,000
		発送費	220,000	415,434	430,000
	会議費		205,000	110,003	1,018,000
		総会費	150,000	110,003	1,000,000
		役員会	25,000	0	18,000
		集会開催費	30,000	0	0
	旅費交通費		350,000	214,315	200,000
	通信費		15,000	15,099	15,000
	事務消耗品費		10,000	547	1,000
	新聞図書費		3,000	1,914	2,000
	支払手数料		4,000	4,254	4,000
	寄付金		40,000	40,000	100,000
	雑費		5,000	0	0
	物品仕入		0	58,280	30,000
	事務費		600,000	600,000	0
	情報発信強化費				360,000
	振替通知料金		15,000	16,390	15,000
	塩川へ助成支出		300,000	30,000	200,000
合計			2,182,000	2,384,918	3,110,000
当期残高（次期繰越金）			385,481	194,865	184,875

監　査　報　告

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第9期（2023年度）会計を厳正に監査したところ、帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監　査　五室光基　　監　査　土居立子

2024年度予算案について、北上田顧問から、高騰する辺野古バス運行のための支援として、23年度には寄付金として3万円出費したが、今年度も継続するべきと提案がありました。本部町島ぐるみ会議から、「塩川へ行こう助成支出」30万円を20万円に減額し、寄付金に10万円計上するよう提案があり、総会に諮ったところ、満場一致で予算案付け替えることにし、2024年度予算を承認しました。

≪　土砂全協第１１回総会の出席者から　≫

まだ止められる！辺野古の埋め立て

環瀬戸内海会議　青野篤子

今回初めて、土砂全協の総会＆現地視察に参加しました。長年気になっていた辺野古をこの目で見て、この問題をリアルに感じることができました。塩川では現地の方と「牛歩」をともにし、暑い中での皆さんのご苦労がほんの少しですがわかった気がします。計画の 17%は埋め立て済みということですが、何とかして止めなければいけない、止めることができるのではないかというのが実感です。しかし、それは、この運動をもっと広げて、私のようにこれまで無知だった人を少なくしていくしかありません。

総会では各地からの報告を聞き、辺野古の埋め立てだけではなく、全国各地の米軍基地と自衛隊基地がどんどん機能を増強され、戦争の準備（と言わずして何でしょう）が進められていることもわかりました。運動の連帯をつくり出している土砂全協の活動はとても意味のあることだと思います。私は、環瀬戸内海会議で活動しています。このたび環瀬戸が出した「瀬戸内法 50 年－未来への提言－」は瀬戸内海の環境が埋め立てや砂利の採取で大きく変わってしまったことを述べています。辺野古のことを是非、孫にも教えてやりたいと思いますし、来年も辺野古に来たいです。(24.5.28)

第 11 回総会 in うるま市に出席して

三重県　小薮広子

「ほんとに行くの？だいたい総会ってものはねー」と言う夫に、「無茶なのはわかっているけれど、虎穴（失礼）に入らずんばなんとやらというし・・・」と返し、沖縄に飛びました。でもその強がりは、バスの中で、「今回は初めて参加という方が２人もいて、**とってもうれしいです！**」という阿部さんの明るい声であっけなく吹き飛んでしまいました。

１日目の辺野古視察では、塩川の抗議行動に参加しました。トラックの前を横断しながら、毎日ここで活動されている方たちの思いを考えました。その心は、冷めた覚悟が重く沈んでいるのでしょう。絶え間なく続く沖縄の苦悩を順送りはさせない、過去と未来につながる今を生きる自分たちの責務として必ずそれは断ち切る、そのためにできることは何でもするという強い決意を、私はぬかるむ道路を歩きながら肌で感じることができたと思います。

２日目・３日目は総会のほかに講演会や現地視察、地域の方との交流など、充実した内容が組まれていました。自衛隊基地が、沖縄だけでなく全国各地にすごい勢いで整備拡充され、日本がすっかり戦争準備の整った国に変貌していることを知りました。平和ボケしている自分を反省するとともに、みんなの力でこの軍備増強を阻止しなければと思いました。

今、日常生活に戻り、沖縄で見聞きしたことは身辺にあまり感じられません。見ようとしなければ、聞こうとしなければ、知ろうとしなければ気づかないことがたくさんあることを、今回の総会で教えていただきました。憲法に「自由及び権利は不断の努力によって保持しなければならない」とあるように、これからもできることを怠ることなく続けていきたいと思います。

学び多い、そして笑いあふれる３日間をありがとうございました。(24.6.2)

土砂全協第 11 回総会に参加して

あいち沖縄会議・不戦へのネットワーク　山本みはぎ

5 月 25 日から 27 日に沖縄うるま市で開催された、土砂全協の総会に初めて参加しました。都合で、26 日の記念講演と総会、27 日の南部視察しか参加できませんでしたが、ニュースではいろいろ情報を得てはいるものの、総会に参加し顔の見えるつながりができ、有意義な時間を持つことができました。

私は、名古屋で不戦へのネットワークという市民団体に関わり、不戦ネットも参加するあいち沖縄会議という市民団体で活動をしています。不戦ネットは、1994 年 12 月に結成し、平和・人権の問題に取り組んでいます。主に、カンボジアから始まり、イラク派兵の拠点となった航空自衛隊小牧基地の問題（基地機能強化の問題など）を中心に取り組んでいます。結成の翌年、少女暴行事件が起こり、それ以来、沖縄問題は会の中心課題として取り組んでいます。

辺野古新基地建設、高江のヘリパッド問題、そしてここ数年は南西諸島の軍事化の問題を取り組む中で、沖縄だけではなく九州各地の自衛隊基地の強化なども問題にしてきました。毎年、参加している「あいち平和のための戦争展」で昨年は軍事化と社会や経済が戦争体制に移行しているという問題意識で「社会まるごと戦争体制」というテーマで展示を行いました。

今回、参加したきっかけは、あいち沖縄会議で 4 月 28 日に「沖縄から見える日本　4.28 は主権回復の日か？」というテーマで与那覇恵子さんを迎えて集会を企画し、与那覇さんからのお誘いがあったからです。

この集会は、沖縄の過重な米軍基地負担や南西諸島の軍事化が進むなか、これは沖縄の問題だけではなく日本全体の問題だということを伝えるというのが趣旨でした。そして、それを止めるためには沖縄をはじめ各地で軍事化に反対をしている人たちと繋がっていかなければ動きは止められないという問題意識からでした。

あまり知られていませんが、一昨年の安保三文書で「敵基地攻撃能力の保有」が閣議決定され、長射程のミサイル開発が本格的に決まりました。その「12式地対艦誘導弾」能力向上型（射程が1000キロ）など長射程のミサイルを作っているのが、愛知県小牧市にある、三菱重工小牧北工場です。因みに、今年3月にイタリア・イギリスと共同開発し、輸出が決まった次期戦闘機の製造は、三菱重工小牧南工場です。愛知は、軍需産業の一大集積地であり、ここで作られたミサイルが大分の弾薬庫に保管され、石垣島や与那国島、宮古島や沖縄島などに配備されるのです。

私たち、不戦ネットは、何度か小牧南・北工場への要請行動等行ってきましたが、運動的には非常に弱く、沖縄の問題を取り組む人たちとも十分な共通課題になっていません。

総会に参加し、沖縄の皆さんの運動や大分の敷戸弾薬庫建設に反対して運動を作っている皆さん、辺野古への土砂をとるために横のつながりを作ってきた土砂全協の皆さんの経験と実践を知り、学び、つながるところから、先行して進んでいる南西諸島の軍事化の問題や全国で進む戦争準備を止めるために、ミサイルに供給元である愛知での運動を作っていきたい！と改めて決意できた機会でした。　　(24.6.19)

∞　2024年５月２５日辺野古・大浦湾から安和桟橋・塩川　∞∞∞∞

大浦湾の埋立て強行に怒り！！

塩川で土砂搬出に牛歩で抗議

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞　辺野古土砂全協　松本宣崇　∞∞

第11回総会の行事は辺野古・塩川視察からスタート。総会参加者は5月25日、沖縄県庁前に集合、貸切バスで辺野古へ。

まずは，辺野古「海のテント」で中村吉且さんの話に耳を傾ける。海のテントからは、埋め立てられた辺野古側の海にそびえる護岸堤が見える。

痛ましい情景だが、辺野古の浜から大浦湾、そして本部町塩川へ通じる幹線道路沿いの両側は、米軍基地用地という。樹木が伐採され、至る所で工事が進められていた。以前の緑豊かな辺野古大浦湾周辺の陸地景観もすっかり変わってしまった。

大浦湾瀬嵩の浜に降りる入口には「ホープスポット」の看板。

浜に下りると、大浦湾対岸で強行される埋立て工事用設備が否応なく目に入る。案内して下さる浦島悦子さんの話を聞く。

そして、安和桟橋では西浦さんの案内で土砂を積み込む長いベルトコンベアを視察、民間企業の造った設備という。唖然茫然、そして怒り！

塩川港では、本部町島ぐるみの仲間らとともに、牛歩で抗議活動を約一時間。土砂搬出を一分でも一秒でも遅らせようと、行き交うダンプの前を牛歩で道路横断を何度も何度も繰り返す。この行動を週５日連日繰り返す本部の仲間には本当に頭が下がります。

よくわかる辺野古の今

ガイドブック「沖縄　壊死する辺野古の風景 2024」

辺野古海のテント村　中村吉且

日々辺野古に通い続けていると、その変容の速さに巨大な力が動いていることを感じる。時には全てを投げ出し、逃げ出したいと思うこともある。

しかし、「辺野古新基地建設工事」が順調に進んでいるとはいえない。美謝川切替工事現場や旧第 4 ゲート下は、年中計画が変更されているのではと思われることがある。大浦湾は「代執行」が強行され半年が経過したにもかかわらず、海上ヤード工事以外、手が付けられていない。

写真１

2 年前の冬、私たちが第 4 ゲートと呼んでいた場所は、戦後 70 年かけて形作られた天然樹林が、谷や丘を埋め尽くしていた（**写真１**）。しかし、「米軍施設再編」という名の工事が始められると、瞬く間に樹林は皆伐採された。重機でへし折られる木々から悲鳴が聞こえた。多くの鳥や蝶類、動物たちの棲家が失われてしまった。樹林が消えた谷からは大量の赤水が大浦湾に流れ出した。

写真２

ゲートからは樹木に遮られて、それまで見ることができなかった大浦湾の姿が、眼前に広がるようになる。軍事機密であるはずの米軍辺野古弾薬庫さえ、目の前に見える（**写真２**）。

樹林が消えた後には無残な赤い裸地が広がり、重機やダンプトラックが縦横に走り回っている。「米軍施設再編」工事はいつの間にか、「辺野古新基地建設」工事へと変わっていた。姿が変わってしまったのは、何も旧第 4 ゲート周辺ばかりではない。第 2 ゲート周辺の美謝川切替工事現場もまた、樹林が消えた。そして今、辺野古ダム周辺の樹林も伐採されようとしている。

何年かぶりに辺野古を訪れた方は、一様にその変貌ぶりに驚く。沖縄の大地や海を破壊して、何が「国防」だ。政府は自然とともに生きてきた琉球人の営みを、なぜ破壊しようとするのか。

本書ではこの 2～3 年間の辺野古の著しい変貌ぶり、そして辺野古に決まるまでの概略史、さらには現在の工事の問題点などをあまねく記している。

執筆にあたっては、「辺野古で何が起こっているか」を広く知ってもらうために、できるだけ平易に、しかも工事の全体像を網羅することを考え、写真や図を多用した。

最も読んでほしいのはヤマトゥの方たち。今、ヤマトゥでどれだけ広められるか。購入しやすいよう、全ページカラーながら 500 円とぎりぎりの価格設定をしている。多くの方のご協力をお願いする次第です。　　(24.6.18)

Ａ－４判　56 頁　フルカラー　頒価 500 円

ご注文は、〒905-2263

沖縄県名護市安部 117　安部市営住宅 101

☎　090-3524-5425　または、

Mail　tandy0310@live.jp　中村吉且まで

1～5 部　送料 370 円　6 部以上　送料着払い

∞ 2024年5月26日うるま市勝連自衛隊基地視察 ∞∞∞∞∞∞

うるま市石川で、保守も革新も一致団結

住民が「自衛隊の訓練施設建設」はねのけた

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞ 辺野古土砂ストップ北九州　八記久美子 ∞∞

■ここだけは笑顔がいっぱい

土砂全協の視察で私たちが行くのは、殆どが闘いの現場や戦跡なので、どこに行っても自然と深刻な表情になります。しかし、うるま市石川にある東山カントリークラブ跡地の視察は、唯一違っていました。

バスの到着が予定より1時間も遅れた現地では、「自衛隊訓練場設置計画の断念を求める会」の共同代表・伊盛サチ子さん(うるま市会議員)と、事務局長・伊波洋正さんが、にこやかに私たちを出迎えてくれました。

左から伊波洋正さん・照屋寛之さん・伊盛サチ子さん

■ほんとに自然豊かな所

私たちが訪れた東山カントリークラブ跡地の先には、石川岳という山が見えます。低いけれど、多くの人に愛されている山だそうです。また麓には、「県立石川青少年の家」という、宿泊学習や自然体験ができる施設があり、子どもが寝泊まりする宿泊棟から訓練施設予定地は、60mしか離れていませんでした。

また、石川は65年前、宮森小学校に嘉手納基地所属の戦闘機が墜落し、児童12人と付近の住民6人が亡くなり、210人が重軽傷を負う大惨事が起こった地域でもあります。

■ミニ経過です

ことの起こりは、防衛省が東山カントリークラブ跡地一帯に、陸上自衛隊の訓練場を造るため、ここを買い上げようとしたことでした。

伊波さんの話に耳を傾ける参加者

しかし「環境の良いこの地に家を立てたのに、目の先に自衛隊の訓練場なんてとんでもない」「訓練によって生活が壊される」「自衛隊車両の通行やヘリの飛行で生活が脅かされる」と、予定地近隣の住民の皆さんから反対運動が始まりました。そしてそれは保守・革新の立場を超えた、地元の17団体でつくる、「自衛隊訓練場設置計画の断念を求める会」へと発展し、防衛省の計画をストップさせることができたそうです。

新聞報道が昨年12月。木原防衛大臣の断念が今年4月。この運動のスピード感にもびっくりですが、住民にとって命に関わる問題は、保守・革新の垣根を越えて、一緒に闘える問題であると再認識しました。

■キーワードは「内緒・突然・説明なし」?

最近、私が感じるのは、防衛省の「内緒・突然・説明なし」です。私の地域の「北九州空港は」突然「特定利用空港」に指定されました。全国の空港や港を軍事施設として使うなど、報道を見るまで全く知りませんでした。佐賀空港横のオスプレイ駐機場(仮称:佐賀駐屯地)建設も、説明会の翌日から土砂搬入が始まりました。国や防衛省のやり方に「問答無用」の雰囲気を感じます。平和と戦争の綱引きが激しさを増していますが、そんな中で、心に元気をくれた伊波洋正さんのお話でした。　(24.6.15)

∞　2024年5月27日、南部エクスカーション　∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

沖縄戦から今日に連なる戦後史、新たな軍事化に向かう現場を訪ねて

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞　首都圏グループ　毛利孝雄　∞∞

湿気を含んだ熱気が肌に張り付く。久々に体感する「うりずん」の感覚の中、総会最終日は朝から南部エクスカーションに向かう。

辺野古代執行下での南部採石場の実態を見ておきたい、そんな軽い気持ちだった。しかし、乗り込んだバスで渡された見学地と詳細な資料に接し、あらためてこの地の持つ特別な意味を再認することにもなった。以下、行程のうちごく一部の紹介になることをお許しいただきたい。

八重瀬町役場で、八重瀬・南城・南風原・豊見城・糸満の島ぐるみ会議の皆さんと合流し、確保が難しくなったといわれる大型観光バスでスタート。

第１に自衛隊基地、陸自八重瀬分屯地・空自与座岳分屯基地・陸自与座南分屯地。戦後、米軍により強制接収された土地は、復帰後ほとんどがそのまま自衛隊に移管され今日に至っている。土地は生産の場のみならず、地域の人々が育んできた歴史と文化を刻印する場であったはず。基地を囲む鉄柵は、自由な立ち入りを拒絶する。

①　陸自八重瀬分屯地

昨年末、与那国を訪れた際に強く印象づけられたことがある。基地ができるということは、これまで自由に往来していた土地に鉄柵と監視がつき、そこに生活する人たちの管理が全く及ばなくなるということ。「防衛は、国の専管事項」、それは現代の「銃剣とブルドーザー」のようにして、地域の自治・歴史・文化・環境・生態系を侵食する。土地とともに生きようとする人々の意思を蹂躙する。

第２は沖縄戦の戦争遺跡。79 年前のこの季節、沖縄は地上戦の只中だった。車内でのレクチャーで「鉄の暴風」の実物が回覧された。長さは 25 ㎝余り、手にすると重い。

②　４kg？　鉄の暴風

４kgの鉄アレー程もある砲弾の破片が、天地四方から降り注いだ。

南部には一家全滅による屋敷跡、いわゆる所有者不明土地も多く残る。

③　一家全滅屋敷跡

いまも地中に眠る戦没者遺骨、処理に今後 70 年ともいわれる不発弾、そして所有者不明の土地、

沖縄戦は今も地つづきに眼前に顕現する。

陸軍病院山城本部壕(サキアブ)には初めて入った。壕の中にわずかに差し込む陽光を見上げながら、79年前ここに身を寄せた人々に思いを馳せる。魂魄の塔はじめ、南部に建立されている碑には、実際の骨塚として建立されたものが多いことは初めて知ることだった。

④　陸軍病院山城本部壕跡

南部遺骨土砂問題で自治体決議を求める陳情に際し、代表をお願いした渡久地芳子さんの言葉を思い起こす。

９歳の時、パラオで終戦。半年後に沖縄に引き上げた。教員に復帰した父に連れられ、父の教員仲間と南部に行ったときの情景が忘れられないという。

「空き地には遺骨が散らばって、怖くて目を開けていられなかった。亡くなった多くの方の血の染み込んだ土地だと考えると、ここは全体がお墓なのだと思った。絶対に埋立てに使わせないで…」

最後に、南部の採石場のいくつかをめぐって思うこと。東里鉱山・熊野鉱山・第２丸真コーラルなどをまわった。公害等調査委員会で２年近く争った熊野鉱山は、ついに掘削が始まってしまった。

⑤　熊野鉱山

摩文仁へとせり上がる丘陵地の側面は、広範囲に削り取られ重機が轟音を立てて稼働していた。

「有川中将自決の碑」横の空き地は整地され、掘り出された琉球石灰岩の仮置き場にされている。

⑥　有川中将碑横が採石置き場に

岩ズリの仮置き場も、至る所に確実に増えている異様さも感じた。1851年ジョン万次郎が上陸した浜の近くの断崖には、かつて水源として利用されてきた湧泉がある。後背地での深さ100メートルにおよぶ石灰岩掘採によるとみられる土砂混入で、周辺への汚染が広がっているという。

⑦　第二丸真コーラル鉱山

沖縄戦遺骨土砂問題とともに、これ以上の自然の摂理に反する掘採は許されない。そのためにも辺野古は絶対に止めなければならない。あらためて思いを強くした。南部エクスカーションを準備された、南部地域島ぐるみ会議の皆さんに心より感謝です。　　(24.6.11)

【追記】　「ひめゆり平和祈念資料館」は、修学旅行生で溢れていた。私には、ここに来た時必ず会いに行く人がいる。最終展示室の遺影の中に、渡嘉敷良子をさがす。射貫くような大きな瞳。仲宗根政善の戦後の人生を決定付けたひとつが、一緒に南部への逃避行を続けた彼女の生と死だったと私は思っている。

辺野古住民による
「沖縄県の埋立承認撤回を取消した国交大臣裁決」
取 消 訴 訟

辺野古住民が、「沖縄県による埋立承認撤回を取消した国交大臣の裁決は違法、代執行は許されない」と訴えた裁判、福岡高裁那覇支部は5月１５日、「原告適格なし」とする国側主張を退け、住民の原告適格を認め、審理を那覇地裁に差し戻した。

高裁那覇支部の差戻し判決を受けて、原告団は５月２４日、沖縄県政記者室で記者会見を開き、国に対し上告せず実質審理に応じるよう求めた。

判決を受け開始した「国に上告断念を求める」要請書には、わずか三日間で沖縄県内外の市民団体など１８３団体（最終的には１８８に！）の賛同が寄せられた。

その事実を伝え、国側・国交大臣による「沖縄県の埋立て承認撤回」の取消し、そして「代執行」による基地建設工事の強行に大きな反対の声があること、多くの市民が「理不尽」と受け止めていることを訴えた。

2024 年 5 月 27 日

内閣総理大臣　岸田文雄　殿　国土交通大臣　斉藤鉄夫　殿
防衛大臣　　木原　稔　殿　　法務大臣　　小泉龍司　殿

公有水面埋立承認撤回処分に対し国土交通大臣がなした裁決取消訴訟における控訴審判決に対し、上告しないことを求める要請

辺野古新基地建設工事を巡り、沖縄県による埋立承認撤回を取り消した国土交通大臣の裁決は違法だとして、辺野古周辺住民 4 人が裁決の取り消しを求めた訴訟の控訴審判決（5 月 15 日）で、福岡高裁那覇支部(三浦隆志裁判長)は、4 人の原告適格を認め、原告適格を否定した原判決（那覇地裁判決）を取り消し、那覇地裁に審理を差し戻す判断を行った。

本訴訟において、国は一貫して原告適格なしとして「門前払い」を求めていたが、新基地建設によって起こりうる騒音や航空機事故などの被害を受ける恐れがある者に原告適格を認めるという、極めて当たり前で真っ当な判決が、司法の良心と矜持を持って示されたことを、私たちは高く評価する。

そもそも本訴訟は、国が沖縄県民の民意や地方自治をも踏みにじり、生物多様性の宝庫である辺野古・大浦湾の自然と周辺住民の生活を破壊する辺野古新基地工事、そのための埋め立てが、公有水面埋立法に照らして合法なのか、沖縄県の埋立承認撤回を行政不服審査法により取り消した国交大臣の裁決が合法なのか否かの審理と判断を求めるものである。しかし、国は終始、原告適格という入り口論のみに拘泥し、実質審理を避けようとしてきた。

国が自信を持って辺野古新基地建設を進めようとするのなら、高裁で適格と認められた原告の主張に対し、自らの正当性と適法性を、真正面から正々堂々と主張し、司法の判断を仰ぐべきである。

仮に、高裁判決が出てもなお、入り口論に留まろうとするような国であれば、私たちは国民として恥ずかしく思う。国に対し、上告しないよう強く要請する。

辺野古新基地建設を巡る住民による訴訟の控訴審判決について、国に上告しないよう求める原告の金城武政さん（中央）ら＝24日、那覇市の県庁記者クラブ

国に上告断念求める

辺野古 二審判決受け原告ら

名護市辺野古の新基地建設を巡る住民らによる訴訟で、原告適格を認め、審理を一審那覇地裁に差し戻した15日の福岡高裁那覇支部の判決を受け、原告らは24日、那覇市で記者会見し、国に上告しないよう求めた。要請書は「新基地建設を進めようとするのなら、自らの正当性と適法性を正々堂々と主張し、司法の判断を仰ぐべきだ」などとしている。

要請は原告団と弁護団、ヘリ基地反対協議会が呼び掛け、県内外の約180の賛同団体が名を連ねている。岸田文雄首相や斉藤鉄夫国交相ら宛てで、27日にも提出する。上告期限は29日。

辺野古に関する訴訟ではこれまで、具体的な審理に入らず、原告適格を認めない門前払い判決が続いていた。要請書では原告適格を認めた高裁那覇支部判決を「司法の良心と矜持を持って示されたことを高く評価する」とした。

国側が上告しなければ、辺野古の埋め立てを巡る国交相裁決について那覇地裁で審理する。原告の金城武政さん(67)は、原告適格を争って裁判が長引くほど工事が進んでしまうと懸念。一方で「あきらめずに正しい主張をしていけば、工事を止められると確信している」と強調した。

（前森智香子）

住民がこれまで、行政の下した処分や措置命令を不服として、司法の場に判断を求める行政訴訟が全国各地で繰り返されてきた。

私の属する環瀬戸内海会議の仲間も各地で、裁判闘争に挑んできた。

ダム建設、産廃処分場建設許可取消、太陽光発電施設設置許可取消など・・・

そこでは多くの場合、行政側の主張で「原告適格」が冒頭の争点となり、住民を「原告不適格」と切り捨て「公訴棄却」、実質審理は叶わなかった。

私も時には原告として、時には住民に寄り添う一市民として傍聴を繰り返し、何度も歯がゆい思いを味わってきた。

今回の福岡高裁那覇支部の判断は、画期的で、行政訴訟の実質審理への窓を開くのではと期待していたが・・国が「最高裁上告」でその機会をむしり取るとは、怒りを禁じえない。　（24.5.30　松本宣崇）

辺野古訴訟原告 上告断念求める

政府へ要請書提出へ

記者会見する原告ら＝24日、県庁記者クラブ

名護市辺野古の新基地建設を巡る訴訟で、周辺住民4人の原告適格を認めた15日の福岡高裁那覇支部の判決を受けて、原告団は24日、県庁記者クラブで会見し、政府に上告しないよう求めた。上告断念を求める要請書を27日、政府に提出する予定。

同高裁支部は判決で、審理を那覇地裁に差し戻している。要請書では「国は高裁で認められた原告の主張に対し、自らの正当性と適法性を真正面から正々堂々と主張し、司法の判断を仰ぐべきだ」と訴えている。24日現在、全国180団体が賛同しているという。

2024. 5. 25 付 地元紙報道

琉球新報 23 面 社会

沖縄タイムス 22 面 社会

しかし、国側は5月28日不当にも、最高裁に上告

2024 年 5 月 30 日

住民の原告適格を認めた高裁判決に対し
国が上告受理申し立てをしたことに強く抗議する！（声明）

国は 5 月 28 日午後、5 月 15 日の福岡高裁判決（辺野古新基地建設工事を巡り、沖縄県による埋立承認撤回を取り消した国土交通大臣の裁決は違法だとして、辺野古周辺住民 4 人が裁決の取り消しを求めた訴訟の控訴審判決。4 人の原告適格を認め、原告適格を否定した一審判決を取り消し、那覇地裁に審理を差し戻した）を不服として、最高裁に上告受理の申し立てを行った。

前日の 27 日午後、ヘリ基地反対協議会・住民の訴訟原告団・辺野古弁護団が沖縄県内外 183 団体の賛同を得て連名で「公有水面埋立承認撤回処分に対し国土交通大臣がなした裁決取消訴訟における控訴審判決に対し、上告しないことを求める要請」を国土交通省に手交した直後であり、県民・国民の民意を一顧だにせず、住民の裁判を受ける権利すら否定しようとする国に対し、私たちは強く抗議する。

本訴訟は、国が沖縄県民の民意や地方自治をも踏みにじり、生物多様性の宝庫である辺野古・大浦湾の自然と周辺住民の生活を破壊する辺野古新基地工事、そのための埋め立てが、公有水面埋立法に照らして合法なのか、沖縄県の埋立承認撤回を行政不服審査法により取り消した国交大臣の裁決が合法なのか否かの審理と判断を求めるものである。しかし国は一貫して、原告適格という入り口論のみに拘泥し、実質審理を避けようとしてきた。

今回の控訴審判決は、新基地建設によって起こりうる騒音や航空機事故などの被害を受ける恐れがある者に「訴える資格あり」という、極めて当たり前で真っ当な判断が理路整然と示されたものであった。それでもなお、これを受け入れず、あくまでも入り口論で「門前払い」を求めようとする国の姿勢は恥ずべきものだと言わざるを得ない。

国は、実質審理の中で自らの正当性と適法性を、真正面から正々堂々と主張し、司法の判断を仰ぐべきである。

最高裁に対しては、高裁判決によって開かれた実質審理への扉を再び閉ざすことのないよう、国の上告を受理しないことを要請する。

ヘリ基地反対協議会（共同代表・浦島悦子／仲村善幸）
住民の訴訟原告団（団長・東恩納琢磨）

2024 年度会費のお願い

会費　　団体：10,000 円　　個人：　3,000 円

辺野古土砂全協は皆様のご支援ご協力に支えられ、早や 9 年が過ぎました。闘いはまだまだ続きます。「不屈」　私たちは決して屈せず、決してあきらめません。ともに闘いましょう！会員の皆様には 2024 年度団体・個人会費のお納めをお願いします。カンパ熱烈大歓迎です！

ー　郵便振替口座　ー
番号　０１７５０-８-１４４１５８
名義　辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

お願いです

辺野古土砂全協の財政がひっ迫しています。2024 年度会費の納入をぜひお願いします。

カンパ、熱烈大歓迎です！

沖縄からの便り
≪連載 №21≫
いちゃりばちょーでー

住民の「原告適格」認めた画期的な高裁判決

国の上告に抗議する!!

ヘリ基地いらない二見以北十区の会　浦島悦子

「原判決を取り消す」――三浦隆志裁判長の第一声に、一瞬、耳を疑った。続いて「本件を那覇地方裁判所に差し戻す」。――勝訴だとわかった傍聴席から「おお～～」というどよめきと拍手が起こった。

5月15日、福岡高裁那覇支部は、沖縄県による辺野古埋立承認撤回を取り消した国土交通大臣の裁決は違法だとして、辺野古周辺住民4人が裁決の取り消しを求めた訴訟の控訴審判決で、4人の原告適格を認めた。原告適格を否定した原判決（那覇地裁判決）を取消し、審理を差戻す判断を行ったのだ。

正直言って期待していなかった。国と県の訴訟も含め辺野古新基地建設を巡る訴訟は負け続け、反対運動の中でも「裁判なんかやっても無駄」の声が聞こえていた。まして三浦裁判長は、国が起こした代執行訴訟で昨年末、沖縄県敗訴の判決を下した張本人だ。敗訴を覚悟していた。

驚きが喜びに替わり、判決後の裁判所前は大いに沸いた。弁護団の笑顔がはじけ、原告や支援者とハグ、三線の音に合わせてカチャーシーも飛び出した。

新基地ができれば被害を受けることが明らかな地元住民に「訴える資格がある」というのは極めて当然の判断だ。しかしこれまで、辺野古関係の訴訟がことごとく門前払いされてきた中では画期的判決だった。2019年提訴以来、5年に及ぶ原告・弁護団の奮闘により、ようやく「原告適格」の扉を開け、実質審理への道を開いたのだ。

しかしながら、一貫して「原告適格」という入口論に固執し、実質審理に入ることを避けてきた国が、この判決を受入れ、差し戻し審に応じるだろうか？なおも「原告適格なし」の判断を求めるため最高裁に上告する可能性が高い。

国が上告しないよう世論を高める必要があった。上告期間は判決から2週間以内（29日まで）。普通の署名運動では間に合わない。原告団・弁護団及び、住民訴訟を反対運動の一環として担ってきたヘリ基地反対協が呼びかけ団体となって、県内外に賛同団体を呼びかけ、その連名で国に「上告しないよう求める要請」を出すことにした。

20日に決めてから締切まで正味3日間。これまでの運動のさまざまな伝手を頼って呼びかけ、集まった賛同は何と183団体（最終的には188団体、県内44，県外144）に及んだ。

北は北海道から南は与那国まで、労働組合や様々な市民団体、全国を網羅する大きな組織もあれば「会員3人」という小さなグループもある。原告団事務局を務める私は、集約や入力に追われながら、その幅広さ、多様性に感動していた。これほど多くの多様な人々に支えられているのだと実感し、胸が熱くなった。市民団体にはユニークな名称も多く、想像が膨らむ。個人名を書く署名運動とはまた違う温もりを感じた。

24日、沖縄県政記者クラブで記者会見を行い、要請文と賛同団体を発表。週明けの27日、東京の仲間が国土交通省に要請文を手交した。

ところが翌28日、案の定というか、国は最高裁に上告受理申し立てを行った。ヘリ基地反対協と原告団は30日、あくまでも門前払いを求める国の暴挙に強く抗議し、最高裁に上告を受理しないよう求める抗議声明を発表した。　　（24.6.16）

＜本稿は、『ふぇみん』3387号（24. 6.5発行）の原稿を加筆・修正したものです＞

「代執行」下の辺野古工事を問う
政府(防衛省・環境省)交渉 ＆ 院内集会

政府・沖縄防衛局は１月、現行地方自治法の下で初めて沖縄県知事の権限を剥奪する「代執行」で、大浦湾側埋立て工事に着手しました。しかし「代執行」の強行で、「軟弱地盤の存在」や「遺骨を含む南部地区土砂による埋立て」、「大浦湾の自然破壊」が消えるわけではありません。沖縄県の主張と民意の正しさは、工事の進捗とともに必ず明らかになるはずです。政府交渉と北上田毅さんの講演を通し、あらためて辺野古新基地を許さない運動の強化を確認したいと思います。ご参加下さい。

【日時】　７月１１日(木)　14：00～17：00

【場所】　衆議院第２議員会館 B1･第１会議室　（地下鉄「永田町」「国会議事堂前」）

※13：30 より１階ロビーで「通行証」を配布します。

【タイムテーブル】　14:00～　講演と政府交渉のポイント解説 北上田毅さん（沖縄平和市民連絡会）
国会議員挨拶等　14:45～　防衛省・環境省交渉　16:30～　まとめと共催団体からの報告 等

【共催】　「止めよう!辺野古埋立て」国会包囲実行委員会　090-3910-4140（沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック）　03-3363-7561（ピースボート）　03-6382-6537（沖縄意見広告運動）
辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会　080-1054-0409
平和をつくり出す宗教者ネット　090-1853-1446

北上田 毅 さん 講演集会

「不当な『代執行』による大浦湾の埋立てを許さない」

【日時】 7月 11 日（木） 18 ：30 ～21：00

【場所】 文京区民センター ２Ａ　（地下鉄「春日」「後楽園」）

【講師】 北上田 毅 さん 「代執行でも破綻する辺野古新基地建設」

【参加費】 500 円（北上田さんの講演用パンフは別途 300 円で販売します）

【主催】 「止めよう!辺野古埋立て」国会包囲実行委員会

【協賛】 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会・平和をつくり出す宗教者ネット

＊ 編集後記 ＊＊＊

6 月 16 日は沖縄県議選（定数 48)。結果は玉城知事支持派が 20 議席と少数派となった。代議制では議席数と民意におのずからズレが起きる。辺野古新基地建設に反対する沖縄県民の意思は変わっていない。とはいえ玉城知事は今後、厳しい議会運営を強いられよう。全国から玉城知事を支えよう。　（松本）

≪辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース つながる力27号≫　2024年7月1日
発行責任者…全国連絡協議会共同代表　阿部悦子（環瀬戸内海会議）　hibi_etsuko@yahoo.co.jp
大谷正穂（山口のこえ）　masaho1954@gmail.com
編　集…松本　宣崇（環瀬戸内海会議）　nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp
HPアドレス…http://stophenoko.html.xdomain.jp/
事 務 局…〒700-0973　岡山市北区下中野 318-114　松本方　TEL･fax　086-243-2927
連 絡 先…〒794-0026　愛媛県今治市別宮町9-7-4　阿部悦子　TEL　090-3783-8332
振 込 先…郵便振替　番号　01750-8-144158　名義　辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会